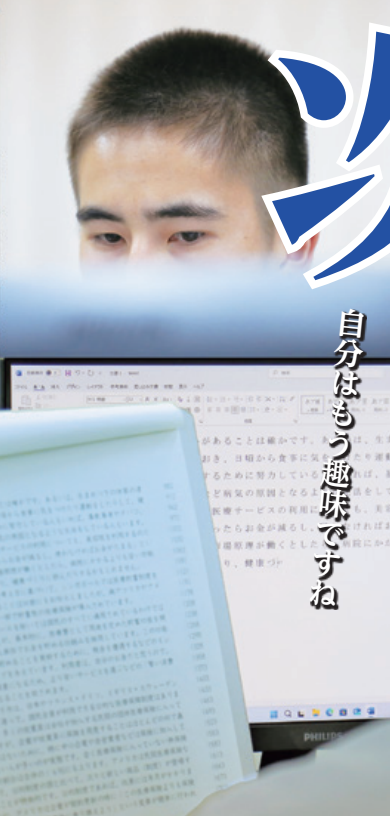




カッコイイじゃないですか
速く打てるのって



自分にもう趣味ですね

次世代 HERO

Next Generation's Hero

第72回 全国高等学校ワープロ競技大会 団体の部 準優勝

下関商業高等学校ワープロ部

とみざわ たける
富澤 尊 さん (左上・2,204字)

べっしょ みお
別所 実桜 さん (左下・1,952字)

とくなが あいな
徳永 愛菜 さん (右下・1,948字)

なか がわ はると
中川 陽翔 さん (右上)



採点係としてチームを裏で支えた
中川さん「全国大会の採点は字数
が多くて普段より疲れしました」。

10 分間で何文字打てるか。タイピングの速さと正確さを競う全国大会で準優勝に輝いた、下商ワープロ部を紹介します。

3人の総字数で順位が決まる団体戦の第1打者を務めるのは、小学校からタイピングが趣味だったというエース富澤さん。冷静な部長・徳永さんが続き、出番まで約1時間の静寂に耐える第3打者は、緊張に強い別所さんです。1文字間違えるごとに、10文字分が

減点。恐れず攻めるか、確実に刻むか。呼吸さえも忘れそうなほど張り詰めた空気の中で始まった、全国47校の戦い。競技は個人、けれど心の奥では仲間が存在を感じながら、皆で打ち込んだ純字数は、6,104字に達していました。

練習では1日に6題をこなし、採点結果をデータにして練習成果を部内で共有。この仕組みを導入した渡辺忠彦先生は「勝ちたい気持ちが特に強いチームだった」と大会を振り返ります。



下関で夢を かなえたい君を 応援します



市長コラム 希望の風

市長の部屋

「こんにちは！ 前田晋太郎です。皆さんは下関市の奨学金返還支援制度をご存じですか？
今月の市報の特集にも取り上げていますが、大学に行くにはどうしてもお金がかかり、多くのご家庭では、奨学金を利用して進学・卒業されることと思います。ただ、社会に出てから奨学金の返還が大変負担となつて、結婚や子育てに不安がある、そういった若い世代の声をたくさん聞いてきました。
このような課題に因應するため、下関市では、6年前に支援制度を導入。最近はその力を入れており、対象者を大幅に拡充させ、最大100万円の支援を用意しています。
かく言う私も在学中は奨学金にお世話になりました。当時は、支援制度がなく、10年間しっかり返済を続けてきました。完済した時に自宅に届いた通知書には、父と連帯保証人の叔父の名前が書かれてあり、「ああ、おかげで今があるんだな」と、2人にお礼の電話をしたことを、ついこの間のことのよう

に覚えてい

ます。
この制度は、大学を卒業する本人だけでなく、ご家族にとっても明るい話題だと思います。今、下関は誰もが未来を描き挑戦できるワクワクするまちづくりを進めています。そのようなふさと下関で就職を考えている人は、ぜひ一度市役所に相談してみてください。